

【情報公開文書】

2018年8月29日作成

Ver. 1.0

研究課題名	移植前後の免疫状態が移植後感染症や生命予後に与える影響の検討
所属（診療科等）	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 移植・消化器外科
研究責任者（職名）	江口 晋 （教授）
共同研究機関	この研究は長崎大学病院のみで実施します。
研究期間	2018年10月16日～2025年4月30日
研究目的と意義	我々の研究では、肝移植術前後のガンマグロブリン値、補体値、リンパ球サブセット（白血球の種類の一つであるリンパ球の機能による分類）、補体の変化が、感染症を含む術後合併症に及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。この研究により、術後合併症が発生する可能性を周術期において予測し、予防や早期治療をすることができるようになることが期待されます。
研究内容	●対象となる患者さん 2013年1月1日から、2023年10月31日の間に、長崎大学病院 移植・消化器外科で肝移植術を受けられた患者さんです。 ●利用する情報／試料 1. 患者特性 2. 背景因子 3. 手術情報 4. 臨床症状 5. 血液検査 6. 微生物学的検査 7. ウイルス学的検査 8. 画像検査 9. 内視鏡検査 10. 治療 11. 病理検査 12. 術後合併症 13. 研究用血液：免疫血清学的検査（IgG、補体〔CH50、C3、C4〕）、細胞性免疫検査（リンパ球サブセット） 14. 保存血清解析：免疫血清学的検査 診療上で採取された血液や、将来の研究のために患者さんの許可を得て保存させていただいていた血液を使用して、免疫血清学的検査および細胞性免疫検査（フローサイトメトリー）を行います。また、上記1から12に記載の事項に関し、診療録から情報を収集します。 【本研究で利用する情報について詳細をお知りになりたい場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。】 ●研究方法 術前と術後の定期的に採取された血液を用い、ガンマグロブリン、補体、リンパ球サブセットの変化を調べます。また、術後に感染症がみられるか、拒絶がみられるか、再度の手術を要するかなどの合併症の有無を調査し、診察や治療上で重要な情報を収集します。ガンマグロブリン値や補体値によって、術前後の各種項目や術後合併症について差がみられるか、統計的解析の手法を用いて評価します。
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：日高 匡章（医師） 長崎大学病院 移植・消化器外科 住所：長崎市坂本1丁目7番1号 電話：095（819）7316 FAX 095（849）7319 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

	受付時間	: 月～金	9:00～17:00 (祝・祭日を除く)
--	------	-------	----------------------